

橋本治

百人一首

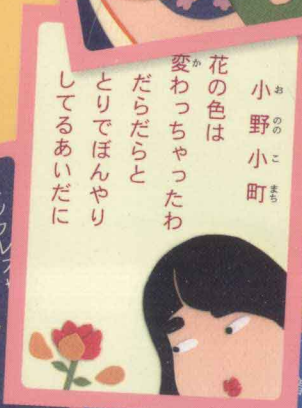
新装版

桃

尻

語

訳



● 斬新な桃尻語訳！

● 目からウロコの解説！

● 桃尻語訳オリジナルカルタ付き！

● プレゼントにも最適！

海竜社

[著者紹介] 橋本 治 (はしもと おさむ)

1948年東京都生まれ。東京大学文学部国文科卒。1977年『桃尻娘』で講談社小説現代新人賞佳作。以後、小説・評論・古典の現代語訳・戯曲・エッセイ等、あらゆるジャンルに精力的な執筆活動を行う。2002年『「三島由紀夫」とはなにものだったのか』で小林秀雄賞、2005年『蝶のゆくえ』で柴田錬三郎賞、2008年『双調 平家物語』で毎日出版文化賞を受賞。他に『窠変 源氏物語』『ひらがな日本美術史』『小林秀雄の恵み』『夜』等、著書多数。

新装版 桃尻語訳 百人一首

二〇〇九年十月二十日 初版第一刷発行

著者 橋本 治

発行者 下村のぶ子

発行所 株式会社 海竜社

〒一〇四—〇〇四五

東京都中央区築地二—十一—二十六

電話……〇三(三五四二)九六七一

FAX……〇三(三五四一)五四八四

郵便振替口座 〇〇一一〇—九—四四八八六

印刷・製本所 図書印刷株式会社

落丁、乱丁本はおとりかえします

©2009, Osamu Hashimoto, Printed in Japan
ISBN 978-4-7593-1093-1

新装版

桃

元

語

記

百人

江苏省工业学院图书馆
藏书章



橋本治

海竜社

百人一首について

百人一首は、鎌倉時代にできました。これを選んだのは、当時の貴族で、有名な歌人でもあった藤原定家（かじわらでい）と言われています。

定家は、鎌倉時代までの百人の和歌の作者と、その作品を一首ずつ選んで、『百人秀歌（しゅうか）』というタイトルをつけました。和歌の「オールタイム・ベスト100」で、時代順に並べました。これが百人一首の原型と言われています。さらに定家は、百首の和歌を一首ずつ色紙に書きます。宇都宮入道（にゅうどう）綱（つな）という人の別荘の飾りにするためです。定家は字がへただったのですが、入道がどうしてもと言うので、しかたなしに書きました。その別荘のあった場所が、紅葉の名所として有名な京都の小倉山なので、この百枚の色紙を「小倉の色紙」と言います。百人一首は、この色紙から生まれたと言われています。

宇都宮入道は、定家の息子の奥さんの父親で、鎌倉の有力な政治家でした。そういう親戚なので、定家もことわれなかったのでしょう。『百人秀歌』だって、もしかしたら、宇都宮入道に頼まれて選んだのかもしれない。宇都宮入道は、「和歌の勉強をしたいから、お手本になるような作品を選んでくれないか」と言いそうな人でもあるのです。「百人一首はそうしてできた」と考えると、とてもわかりやすくなりますし、親しみやすくなります。百人一首の人気は、いろいろな歌が集められて、「和歌の入門レッスン」になるところにもあるでしょう。

カルタになった百人一首

「歌留多^{かると}」と漢字で書くと思うかもしれませんが、「カルタ」はポルトガル語です。英語の「カード」と同じです。戦

国時代の日本に、鉄砲やキリスト教なんかと一緒に、日本へやってきました。そのカルタが、どうして「小倉の色紙」とドッキングしてしまったのかというと、べつにたいした不思議ありません。ポルトガル人がやってこなくても、日本人は昔から、それに近い遊び方をしていたからです。

五・七・五・七・七の和歌は、「五・七・五」の上の句と、「七・七」の下^{しも}の句にわかれています。上の句を「本^{もと}」、下の句を「末^{すえ}」といって、有名な和歌の上の句（本）を言って、その「末」を当てさせる遊びは、平安時代からありました。

印刷技術のない昔に「本を読む」ということは、たいへんなことでした。人に借りて読んで、書き写すことまでしました。和歌の場合には、「覚える」ということも必要です。そして、効果的に覚える方法は昔から決まっていて、「遊びにしてみよう」なのです。「上の句を言って下の句を当てる」もそれで、たとえば、貝がらの内側に和歌の上の句と下の句を別々に書いて、それをいくつも伏せて並べておけば、トランプの神経衰弱と同じ遊びになります。昔の人は、これを「貝合わせ」と言いました。そういう伝統があります。百人一首がさつさと「カードゲーム」になっても、不思議ではなかったのです。

百人一首の現代語訳

『桃尻語訳百人一首』は、藤原定家が選んだとされる百人一首を、

そのまま和歌の形で現代語に訳してしまったものです。たとえば、

天智天皇の「秋の田のかりほの庵いほの苫とまをあらみ わが衣手ころもでは露にぬれつつ」は、「秋の田の刈り入れ小屋はぼろぼろで わたしの袖は濡れっぱなしさ」になります。

「なんだこれは？」と言いたくなる人もいるかもしれません。でも、「かりほの庵」は「仮設の刈り入れ小屋」で、「苫をあらみ」は、その小屋を覆う草の屋根が粗あらくて「穴だらけ」なのです。つまりは、「刈り入れ小屋はぼろぼろ」です。だから、「稲刈りのためそこにいる私の袖は濡れっぱなし」になるのです。

知らないでいると、この天智天皇の歌は、とても上品そうです。でも、そのまま訳してしまうと、意味が見えすぎて、「なんだそりゃ？」と言いたくなるようなものになってしまいます。だから、「百人一首なんかべつにどうつてことない」と言うこともできます。「そんな訳は、百人一首に対する冒瀆ぼうとくだ」と言うこともできます。でも、それを言う前に、元の歌を見てください。たいした内容の歌でもないのに、昔の言葉にすると、とても深い内容で、美しいイメージがあるように見えるのです。大切なのは、そのことです。どんなことでも、言い方によつては、美しくなるし、深くなるのです。現代語訳は、そんな古典の言葉の美しさを知るための、参考だと思ってください。

百人一首の遊び方

ふつうのカルタは、字の書いてある札を読んで、絵の描いてある札を取ります。でも、百人一首は逆です。絵の描いてあるのが「読み札」

で、ひらがなの字だけ書いてあるのが「取り札」です。そこには、和歌の下句だけが書いてあります。ふつうは、百枚の取り札をバーツと広げて、一人の読み手が「読み札」にある和歌を読み、何人もの人間で下句の書いてある「取り札」を探し、取りつこをします。百人一首のカルタ競技は、その早さを競って、取った札の数の多さで、勝者を決めます。だから、この競技で勝つためには、まず百首の歌を覚えてしまうことです。そうすれば、読み手が和歌を読み終わる前に、その歌の下句の書いてある「取り札」をさっさと探すことができます。つまり、百人一首のカルタ会をやると、記憶力に競争原理が導入できて、和歌に慣れる。そして、いつの間にか、古典に対するプレッシャーがなくなってしまうのです。

そのためには、まず現代語訳のほうで練習をしましょう。いきなり古典の言葉の和歌を読まれても、何を言っているのかわかりません。現代語訳に慣れたら、古典のほうにチャレンジしましょう。すいませんが、どこかで本物の『小倉百人一首』を買ってください。それで慣れたら、「取り札」を古典にして、現代語訳を読みましょう。逆もOKです。「いったいこの歌の下句はなんなんだ？」と考えると、古典の勉強になります。そんな風にしてください。

新装版 桃尻語訳 百人一首【目次】

百人一首について……………	3	七	安倍仲磨……………	24	二〇	元良親王……………	37
カルタになった百人一首……………	4	八	喜撰法師……………	25	二一	素性法師……………	38
百人一首の現代語訳……………	5	九	小野小町……………	26	二二	文屋康秀……………	39
百人一首の遊び方……………	6	十	蟬丸……………	27	二三	大江千里……………	40
		一一	参議篁……………	28	二四	菅家……………	41
一 天智天皇……………	18	一二	僧正遍昭……………	29	二五	三条右大臣……………	42
二 持統天皇……………	19	一三	陽成院……………	30	二六	貞信公……………	43
三 柿本人麿……………	20	一四	河原左大臣……………	31	二七	中納言兼輔……………	44
四 山部赤人……………	21	一五	光孝天皇……………	32	二八	源宗于朝臣……………	45
五 猿丸大夫……………	22	一六	中納言行平……………	33	二九	凡河内躬恆……………	46
六 中納言家持……………	23	一七	在原業平朝臣……………	34	三〇	壬生忠岑……………	47
					一九	伊勢……………	36
					一八	藤原敏行朝臣……………	35

三一	坂上是則……………	48	四四	中納言朝忠……………	61	五七	紫式部……………	74
三二	春道列樹……………	49	四五	謙徳公……………	62	五八	大式三位……………	75
三三	紀友則……………	50	四六	曾禰好忠……………	63	五九	赤染衛門……………	76
三四	藤原興風……………	51	四七	惠慶法師……………	64	六〇	小式部内侍……………	77
三五	紀貫之……………	52	四八	源重之……………	65	六一	伊勢大輔……………	78
三六	清原深養父……………	53	四九	大中臣能宣朝臣……………	66	六二	清少納言……………	79
三七	文屋朝康……………	54	五〇	藤原義孝……………	67	六三	左京大夫道雅……………	80
三八	右近……………	55	五一	藤原実方朝臣……………	68	六四	權中納言定頼……………	81
三九	参議等……………	56	五二	藤原道信朝臣……………	69	六五	相模……………	82
四〇	平兼盛……………	57	五三	右大將道綱母……………	70	六六	前大僧正行尊……………	83
四一	壬生忠見……………	58	五四	儀同三司母……………	71	六七	周防内侍……………	84
四二	清原元輔……………	59	五五	大納言公任……………	72	六八	三条院……………	85
四三	權中納言敦忠……………	60	五六	和泉式部……………	73	六九	能因法師……………	86

七〇	良暹法師……………	87	八三	皇太后宮大夫俊成……………	100	九六	入道前太政大臣……………	113
七一	大納言經信……………	88	八四	藤原清輔朝臣……………	101	九七	權中納言定家……………	114
七二	祐子內親王家紀伊……………	89	八五	俊惠法師……………	102	九八	從二位家隆……………	115
七三	前權中納言匡房……………	90	八六	西行法師……………	103	九九	後鳥羽院……………	116
七四	源俊賴朝臣……………	91	八七	寂蓮法師……………	104	一〇〇	順德院……………	117
七五	藤原基俊……………	92	八八	皇嘉門院別當……………	105			
七六	法性寺入道前關白太政大臣……………	93	八九	式子內親王……………	106			
七七	崇德院……………	94	九〇	殷富門院大輔……………	107			
七八	源兼昌……………	95	九一	後京極攝政前太政大臣……………	108			
七九	左京大夫顯輔……………	96	九二	二条院讚岐……………	109			
八〇	待賢門院堀河……………	97	九三	鎌倉右大臣……………	110			
八一	後德大寺左大臣……………	98	九四	參議雅經……………	111			
八二	道因法師……………	99	九五	前大僧正慈円……………	112			

【初句索引】

《あ》

あきかぜに (七九 左京大夫顯輔) ……	96
あきのたの (一一 天智天皇) ……	18
あけぬれば (五二 藤原道信朝臣) ……	69
あさぢふの (三九 參議等) ……	56
あさぼらけ (三一 坂上是則) ……	48
あさぼらけ (六四 權中納言定頼) ……	81
あしひきの (三 柿本人麿) ……	20
あはちしま (七八 源兼昌) ……	95
あはれとも (四五 謙徳公) ……	62
あひみての (四三 權中納言敦忠) ……	60
あふことの (四四 中納言朝忠) ……	61
あまつかぜ (一二 僧正遍昭) ……	29
あまのはら (七 安倍仲麿) ……	24
あらざらむ (五六 和泉式部) ……	73

《い》

あらしふく (六九 能因法師) ……	86
ありあけの (三〇 壬生忠岑) ……	47
ありまやま (五八 大式三位) ……	75
いまはただ (六三 左京大夫道雅) ……	80
いまこむと (二一 素性法師) ……	38
いにしへの (六一 伊勢大輔) ……	78

《う》

うかりける (七四 源俊頼朝臣) ……	91
うらみわび (六五 相模) ……	82

《お》

おくやまに (五 猿丸大夫) ……	22
おとにきく (七二 祐子内親王家紀伊) ……	89
おほえやま (六〇 小式部内侍) ……	77
おほけなく (九五 前大僧正慈円) ……	112

《か》

おもひわび (八二 道因法師) ……	99
かくとだに (五一 藤原実方朝臣) ……	68
かささぎの (六 中納言家持) ……	23
かぜそよぐ (九八 從二位家隆) ……	115
かぜをいたみ (四八 源重之) ……	65

《き》

きみがため (二五 光孝天皇) ……	32
きみがため (五〇 藤原義孝) ……	67
きりぎりす (九一 後京極攝政前太政大臣) ……	108

《こ》

こころあてに (二九 凡河内躬恆) ……	46
こころにも (六八 三条院) ……	85
こぬひとを (九七 權中納言定家) ……	114
このたびは (二四 菅家) ……	41

こひすてふ(四一 壬生忠見)……………58
これやこの(十 蟬丸)……………27

〈さ〉
さびしさに(七〇 良通法師)……………87

〈し〉
しのぶれど(四〇 平兼盛)……………57
しらつゆに(三七 文屋朝康)……………54

〈す〉
すみのえの(一八 藤原敏行朝臣)……………35

〈せ〉
せをはやみ(七七 崇徳院)……………94

〈た〉
たかさこの(七三 前権中納言匡房)……………90

たきのおとは(五五 大納言公任)……………72
たこのうらに(四 山部赤人)……………21

たちわかれ(二六 中納言行平)……………33
たまのをよ(八九 式子内親王)……………106
たれをかも(三四 藤原興風)……………51

〈ち〉
ちぎりおきし(七五 藤原基俊)……………92
ちぎりきな(四二 清原元輔)……………59

ちはやぶる(二七 在原業平朝臣)……………34

〈つ〉
つきみれば(二三 大江千里)……………40
つくばねの(二三 陽成院)……………30

〈な〉
ながからむ(八〇 待賢門院堀河)……………97
ながらへば(八四 藤原清輔朝臣)……………101

なげきつつ(五三 右大將道綱母)……………70
なげけとて(八六 西行法師)……………103

なつのよは(三六 清原深養父)……………53
なにしおはば(二五 三条右大臣)……………42
なにはえの(八八 皇嘉門院別当)……………105
なにはがた(二九 伊勢)……………36

〈は〉
はなさそふ(九六 入道前太政大臣)……………113
はなのいろは(九 小野小町)……………26

はるすぎて(二 持統天皇)……………19
はるのよの(六七 周防内侍)……………84

〈ひ〉
ひさかたの(三三 紀友則)……………50
ひとはいさ(三五 紀貫之)……………52

ひとをし(九 後鳥羽院)……………116

《ふ》

ふくからに (二二 文屋康秀)…………… 39

《ほ》

ほととぎす (八一 後徳大寺左大臣)…………… 98

《み》

みかきもり (四九 大中臣能宣朝臣)…………… 66

みかのはら (二七 中納言兼輔)…………… 44

みせばやな (九〇 殷富門院大輔)…………… 107

みちのくの (一四 河原左大臣)…………… 31

みよしのの (九四 参議雅経)…………… 111

《む》

むらさめの (八七 寂運法師)…………… 104

《め》

めぐりあひて (五七 紫式部)…………… 74

《も》

もししきや (一〇〇 順徳院)…………… 117

もろともに (六六 前大僧正行尊)…………… 83

《や》

やすらはで (五九 赤染衛門)…………… 76

やへむぐら (四七 惠慶法師)…………… 64

やまがはに (三二 春道列樹)…………… 49

やまざとは (二八 源宗于朝臣)…………… 45

《ゆ》

ゆふされば (七一 大納言経信)…………… 88

ゆらのとを (四六 曾禰好忠)…………… 63

《よ》

よのなかは (九三 鎌倉右大臣)…………… 110

よのなかよ (八三 皇太后宮大夫俊成)…………… 100

よもすがら (八五 俊惠法師)…………… 102

よをこめて (六二 清少納言)…………… 79

《わ》

わがいほは (八 喜撰法師)…………… 25

わがそでは (九二 二条院讃岐)…………… 109

わすらるる (三八 右近)…………… 55

わすれじの (五四 儀同三司母)…………… 71

わたのはら (一一 参議篁)…………… 28

わたのはら (七六 法性寺入道前関白太政大臣)…………… 93

わびぬれば (二〇 元良親王)…………… 37

《を》

をぐらやま (二六 貞信公)…………… 43

【桃尻語訳＊初句索引】

〈あ〉

あきかぜに (七九 左京大夫顯輔)	96
あきのたの (一 天智天皇)	18
あさがきて (三一 坂上是則)	48
あさがきて (六四 權中納言定頼)	81
あさじうの (三九 参議等)	56
あさになる (五二 藤原道信朝臣)	69
あしびきの (三 柿本人麿)	20
あのひとが (四一 壬生忠見)	58
あらしだよ (六九 能因法師)	86
ありあけが (三〇 壬生忠岑)	47
ありまやま (五八 大式三位)	75
あわじしま (七八 源兼昌)	95

〈い〉

いいなだね (二五 三条右大臣)	42
いきたいと (六八 三条院)	85
いきてけば (八四 藤原清輔朝臣)	101
いきますが (二六 中納言行平)	33
いっしょにさ (六六 前大僧正行尊)	83
いまだれと (三四 藤原興風)	51
いまはもう (六三 左京大夫道雅)	80
いまいくと (二一 素性法師)	38
うなばらに (七六 法性寺入道前関白太政大臣)	93
うなばらを (二一 参議室)	28
うらみなき (六五 相模)	82
おおえやま (六〇 小式部内侍)	77
おおむかし (六一 伊勢大輔)	78

〈お〉

〈か〉

おおぞらを (七 安倍仲磨)	24
おくやまで (五 猿丸大夫)	22
おぐらやま (二六 真信公)	43
おちついて (五九 赤染衛門)	76
おれのいえ (八 喜撰法師)	25
かくしても (四〇 平兼盛)	57
カササギの (六 中納言家持)	23
かぜがふく (四八 源重之)	65
かぜそよぐ (九八 從二位家隆)	115
きみのせい (五〇 藤原義孝)	67
きみのため (二五 光孝天皇)	32
きゆうちゆうの (二〇〇 順徳院)	117

〈き〉

〈く〉

くのうして(八二 道因法師)……………99

〈こ〉

こいのひは(四九 大中臣能宣朝臣)……………66

こうとさえ(五一 藤原実方朝臣)……………68

こおろぎも(九一 後京極摂政前太政大臣)……………108

こぬひとを(九七 権中納言定家)……………114

このそでは(九二 二条院讃岐)……………109

このたびは(二四 菅家)……………41

これかいな(十 蟬丸)……………27

〈さ〉

ざつそうが(四七 惠慶法師)……………64

さびしさに(七〇 良遍法師)……………87

〈し〉

じつさいに(四三 権中納言敦忠)……………60

しらつゆに(三七 文屋朝康)……………54

〈す〉

すみのえの(二八 藤原敏行朝臣)……………35

〈せ〉

セックスが(四四 中納言朝忠)……………61

〈そ〉

そらのかぜ(二二 僧正遍昭)……………29

〈た〉

だいそれて(九五 前大僧正慈円)……………112

たごのうらに(四 山部赤人)……………21

たにがわに(三二 春道列樹)……………49

〈ち〉

ちかったね(四二 清原元輔)……………59

〈つ〉

つきみれば(二三 大江千里)……………40

つくばねの(二三 陽成院)……………30

つめたいな(七四 源俊頼朝臣)……………91

〈て〉

てきとーに(二九 凡河内躬恆)……………46

〈と〉

どうした?と(四五 謙徳公)……………62

とうほくの(二四 河原左大臣)……………31

とおやまの(七三 前権中納言匡房)……………90

〈な〉

ながつづき(八〇 待賢門院堀河)……………97

ながれおち(七七 崇徳院)……………94

なきながら(五三 右大將道綱母)……………70

なけとでも(八六 西行法師)……………103

なつのよは (三六 清原深養父)……………53

なにわえの (八八 皇嘉門院別当)……………105

なにわがた (一九 伊勢)……………36

なにたかい (七二 祐子内親王家紀伊)……………89

なやんださ (二〇 元良親王)……………37

《ね》

ネツクレス (八九 式子内親王)……………106

《は》

はなのいろは (九 小野小町)……………26

はるすぎて (二 持統天皇)……………19

はるのよの (六七 周防内侍)……………84

《ひ》

ひぐれれば (七一 大納言経信)……………88

ひさかたの (三三 紀友則)……………50

ひとはどう? (三五 紀貫之)……………52

ひとばんじゅう (六二 清少納言)……………79

ひとばんじゅう (八五 俊恵法師)……………102

ひとはすき (九九 後鳥羽院)……………116

《ふ》

ふきだすと (二二 文屋康秀)……………39

ふたしかな (五六 和泉式部)……………73

《ほ》

ほととぎす (八一 後徳大寺左大臣)……………98

《ま》

まんかいの (九六 入道前太政大臣)……………113

《み》

みかのはら (二七 中納言兼輔)……………44

みずおとは (五五 大納言公任)……………72

みせたいわ (九〇 股富門院大輔)……………107

みよしのの (九四 参議雅経)……………111

ミラクルな (二七 在原業平朝臣)……………34

《む》

むらさめの (八七 寂蓮法師)……………104

《め》

めぐりあい (五七 紫式部)……………74

《や》

やくそくの (七五 藤原基俊)……………92

やまざとは (二八 源宗子朝臣)……………45

《ゆ》

ゆらのとを (四六 曾禰好忠)……………63

《よ》

よのながが (九三 鎌倉右大臣)……………110